

## 第1学年 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：学校生活におけるルールを考え、実行することで、社会に貢献する人間になろう！  
～わたしたちは、社会とどうかわかり、どう生きるのか～

指導者 呉市立両城中学校 舛田 康司

日時 令和3年10月4日（月）6校時  
場所 呉市立両城中学校 第1学年2組教室  
学年 第1学年2組（男子10名 女子11名 計21名）

### 単元について

#### ○単元観

本単元は、学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」の育成を基に構想し、本校の受け継がれてきた生徒指導規定をはじめとするルールやマナーの意味と必要性を調べ、みんなが楽しく学校生活を送るためには何が必要か、どう行動するか、自ら設定した課題を解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本単元では、小学校の時に身に付けた学校生活における決まり事を振り返り、社会でのルールを意識させながら活動を展開する。取組の過程で生徒は、学校におけるルールの意味と必要性を考え、議論し、考えを深めることを通して、「学びに向かう力」「よりよい人間性」を育むことが期待できる。これらは、両城中学校区小中一貫教育で掲げている「自ら進んで学び合い、認め合う児童生徒の育成」という目標につながると考えている。

#### ○生徒観

本学年では、本校の目指す生徒像「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現する力を育て、夢の実現に向けてチャレンジする生徒」を踏まえ、学年目標として、1年次は「3年間を通じて充実した学校生活を送ることができる基盤をつくる」と設定した。「学校生活での約束事」を学んだ上で、自分たちの生活をよりよくするために、生徒指導規程の見直しや生徒心得の意味と必要性を考え、社会貢献につながる新たな「学校生活での約束事」の創造に生徒主体で取り組ませた。

本学級でも、「学校生活での約束事」を軸に据え指導をすすめてきた。アンケート調査の結果からは、「将来の夢や目標の実現に向けて努力している。」の肯定的回答は76.7%（1年生7月）、「自分にはよいところがあると思います。」の肯定的回答は65.1%（1年生7月）、将来への展望が見通せていないこと、自分に自信が持てていないことがいくらか見受けられる。

これらの課題解決に向けて、学校生活において、教師や生徒相互で認め合う集団づくりを推進する必要がある。

#### ○指導観

本単元の指導にあたっては、自分の将来、社会に貢献する人間になるために必要な力を生徒に考えさせ、自ら行動する力をつけさせる。

その際、生徒自身の将来の人間像を形成させるための探究課題となるように、生徒指導の三機能を様々な場面で設定する。決められたルールを守り、自分自身で責任が取れる範囲内で自らが行動を選択し、その行動に責任を取る機会を与える。グループでの話し合い活動において学び合う機会を設定し、生徒自身の生き方について具体的・現実的なものとして考えさせる。自己肯定感や自己有用感の向上につなげるため、計画的にかつタイムリーに肯定的に評価する機会を増やす。

これらの指導を通して、自分自身の将来設計について考え、困難を理解した上で、それを乗り越えようと努力し、着実に切り拓いていこうとする資質・能力の育成につなげていきたい。そのことが生徒自身の将来、社会に貢献する人間になるために必要な力をつけることにつながると期待する。

### 単元の目標及び評価規準

#### 【単元の目標】

上級生の学校や社会生活での頑張りや「生徒指導規程」、「生徒心得」等について調べることを通して、それらのルールがなぜ必要なのかを理解するとともに自分たちが行うべき行動について考え実行することで、社会に貢献する人間性を育成する。

#### 【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
①比較対象となる物事を対比させて話している。 ②多くの人に情報を発信するための方法や、内容に合わせた表現方法があることを理解している。 ③詳しく知ることや、物事の必要性について課題を発見し、解決に向けての見通しをもっている。	①グループで協働しながら、考えを文章化している。 ②課題解決に向けて、どのように行動すればよいか、根拠をもとに他者に理解してもらうためのプレゼンテーションに工夫している。 ③調査・分析の結果から、達成に向けてどのような行動をとればよいか表現している。	①調べる活動を通して、学校の一員であることの自覚と責任をもとうとしている。 ②今の自分に求められる行動について考えようとしている。 ③仲間の意見を取り入れながら考えようとしている。 ④複数の項目を取捨選択することで、自己決定の場を設け、達成へ向けて行動しようとしている。 ⑤課題の解決に向けて、効果的な取組を行うことができたかを振り返っている。

指導と評価の計画（本時は 18/35[全 35 時間]）

〈本質的な問い〉わたしたちは、社会とどうかわり、どう生きるのか

次	時	学習内容	評価規準（評価方法）
第一次	1	<b>課題の設定</b> 学校生活や社会生活をよりよくするにはどうしたらよいのだろうか。	・小学校での生活を想起し、中学校生活と対比させて話すことができる。 <b>知①</b> （行動観察）
	2	<b>情報の収集</b> ○上級生が学校生活や社会生活において頑張っていることや努力していることを調べる。	・上級生たちの頑張りの努力を調べる活動を通して、学校の一員であることの自覚と責任をもとうとしている。 <b>主①</b> （行動観察）
	3	<b>整理・分析</b> ○学校生活や社会生活において、中学生として今の自分はどんな貢献ができるか考える。	・小学校生活と中学校生活との違いから、中学生として求められる行動について考えようとしている。 <b>主②</b> （ワークシート・行動観察）
	4	<b>まとめ・創造・表現・振り返り</b> ○自身の考えをグループ内で発表し合う。発表方法や内容について振り返る。	・多くの人に情報を発信するための方法や、内容に合わせた表現方法があることを理解している。 <b>知②</b> （ワークシート・行動観察）
	5		
	6		
第二次	7	<b>課題の設定</b> ○「生徒指導規程」「生徒心得」を読む。 中学校生活3年間でどのような力を身に付け、今後の自分たちが行うべき活動は何だろうか。	・「生徒指導規程」「生徒心得」について詳しく知ることや、ルールを守る必要性について課題を発見し、解決に向けての見通しをもっている。 <b>知③</b> （ワークシート、発言）
	8	<b>情報の収集</b> ○「生徒指導規程」「生徒心得」について、各項目にどのような意図があるか調べる。	・受け継がれてきた「生徒指導規程」を自分なりに理解するために、仲間の意見を取り入れながら考えようとしている。 <b>主③</b> （行動観察）
	9		
	10		
	11	<b>整理・分析</b> ○グループで「生徒指導規程」「生徒心得」から、自分たちが達成できる内容を考え、実行できる内容に整理・分析し文章化する。	・グループで協力しながら、生徒指導規程に基づいて、「自分たちで達成できる、学校生活でのルール（ミッション）」を考え、文章化することができる。 <b>思①</b> （ワークシート、行動観察）
	12		
	13		
	14		
	15	○出し合った項目から、自分たちで達成できる項目を取捨選択していく。	・達成できる項目を取捨選択することで、自己決定の場を設け、達成へ向けて行動することができる。 <b>主④</b> （行動観察）
	16		
17			
18	<b>まとめ・創造・表現</b> ○グループで考えた【学校生活での約束事】のアイデアをプレゼンテーションし、他のグループから意見を出してもらい、改善点を探す。	・課題解決に向けて、どのように行動したらよいか、仲間に理解してもらうためのプレゼンテーションに工夫ができてきている。 <b>思②</b> （ワークシート、発言）	
19			
20			
21	<b>振り返り</b> ○「学校生活での約束事について」の達成度合アンケート調査を行い、達成度を確認し今後自分たちが行うべき行動を考える。	・課題の解決に向けて、効果的な取組を行うことができたかを振り返っている。 <b>主⑤</b> （ワークシート、行動観察） ・アンケートをもとに、調査・分析を行い、達成に向けてどのような行動をとればよいか考えることができる。 <b>思③</b> （ワークシート）	
22			
第三次	23	<b>課題の設定</b> ○交流会に向けて、これまでの学校生活や社会生活を振り返る。 両城中学校や地域のよさを具体的に表現し伝えるためには、どのようにプレゼンテーションしたらよいのだろうか。	・振り返った内容を生かし、どのように伝えることが効果的かを考え表現できる。 <b>思③</b> （行動観察・発言）
	24		
	25	<b>情報の収集</b> ○伝える内容ごとにグループに分かれ、プレゼンテーションで伝えるべき内容について取捨選択する。	・グループごとに、収集した情報を積極的に活用している。 <b>主③</b> （行動観察・発言）
	26		
	27	○交流会で知りたいことは何なのか考える。	・内容を取捨選択することで、自己決定の場を設け、交流会成功に向けて行動しようとしている。 <b>主④</b> （行動観察）
	28		
	29	<b>整理・分析・まとめ・表現</b> ○グループでまとめた内容を、他のグループと交流し、伝える方法について意見を出してもらい、改善点を探す。	・プレゼンテーションの方法や手段等について、より良い方法は何か考えて表現することができる。 <b>思①</b> （ワークシート、行動観察）
	30		
	31	<b>実行</b> ○交流会で、井ノ川中学校の生徒に、両城中学校のよさや地域のよさをプレゼンテーションする。	・内容を理解してもらうためのプレゼンテーションに工夫ができてきている。 <b>思②</b> （ワークシート、発言）
	32		
33	<b>振り返り・新たな課題の設定</b> ○交流会の内容を振り返り、自分たちが設定した課題の解決についての振り返りを行う。	・課題の解決に向けて、効果的な取組を行うことができたかを振り返っている。 <b>主⑤</b> （ワークシート、行動観察）	
34			
35	1年間の活動を振り返り、今後どのような中学校生活を送ることで、実社会で通用する人間性を身に付けられるか考える。		

## 本時の展開

(1) 本時の目標

各グループのプレゼンテーションを聞き、達成できそうな内容については評価し、達成できそうにない内容については改善案もしくは反対の意思表示をすることができる。また、取捨選択をしながら、生徒オリジナルの「学校生活での約束事」を決定することができる。

(2) 本時の評価規準

課題解決に向けて、どのように行動したらよいか仲間に理解してもらうためのプレゼンテーションに工夫している。 【思考力・判断力・表現力②】

(3) 学習の展開（第18時／全35時間）

分	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)		
2	1 教師の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「実社会で通用する人間になるためには、中学校での生活も重要である」という課題意識をもたせる。</li> <li>・教師からの発信で学校生活についてのルールを守るのではなく、自分たちでルールを決め、仲間と協力してルールを守っていく意識をもたせる。</li> </ul>			
1	2 本時の学習課題を確認する。				
生徒オリジナルの「学校生活での約束事」を決定することができる。					
15	3 各グループのオリジナルの「学校生活の約束事」を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的資料を用いて効果的に発表する。</li> <li>・否定的に評価するのではなく、改良するなど、発表を活かしていくよう、肯定的に捉える。</li> </ul>	課題解決に向けて、どのように行動したらよいか仲間に理解してもらうためのプレゼンテーションとなるよう工夫している。 <span style="float: right;">【思考力・判断力・表現力②】 (ワークシート、発言)</span>		
10	4 発表を聞いて、各グループで取り組めそうな内容と、内容を改善したら取り組めそうな内容と、廃案の内容を取捨選択する。				
5	5 各グループで話し合った内容を全体共有する。				
10	6 どの内容が課題解決に向けた取組になるか全体で整理する。				
7	7 振り返りをする。				
<b>振り返り例</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで決めた「学校生活での約束事」なので確実に実行し、将来社会に出て通用する人間になれるよう、取り組んでいきたい。</li> <li>・自分たちで考え決めた目標なので、自分だけが目標に向けて取り組むのではなく、仲間と声を掛け合いながら取り組んでいきたい。</li> </ul>					

## 成果と課題

本校では例年、「しぐさ」をキーワードに、第1学年では「生活しぐさ」について、総合的な学習の時間において、自分たちの可能性を探り、自分の良さや自分たちの価値について気づかせ、学校生活や学習体験など様々な場面にふさわしい「しぐさ」を考え、よりよい生活を送るための「生活しぐさ」として発信する活動に取り組んできた。

今年度からは、学びの方向性はこれまでと変わらないものの、「わたしたちは、社会とどうかかわり、どう生きるのか」という問いを立て、学校生活のみの「しぐさ」ではなく、よりグローバルな視点での「しぐさ」を追究させるための単元として構想した。

事前事後のアンケートでは「あなたは、授業の振り返りで、自分の変容(成長)〈ついた力やその活用場面、学びを獲得した学習過程等〉をまとめることができますか。」という項目の肯定的な回答が、7月の時点で74.4%であったが、12月の調査では90.5%となった。具体的には、「自主的に行動できるようになり、周りのことも考えて行動できるようになりました。」(主体性)、「誰が聞いても納得するような原稿をつくることは難しかったが、自分の伝えたいことをしっかり伝えることはできたと思いました。」(主体性)などの記述が多く見られた。

また、自分たちで考えた「学校生活での約束事」をより多くの人に分かりやすく、しかも効果的な方法で発信することについて探究していくことが、第3次の鹿児島県井之川中学校との交流会で発表する活動へとつながった。

その結果、「あなたは、授業中に疑問や課題に対し主体的に考え、まとめたり、表現したりするなどの活動に取り組んでいますか。」という項目の肯定的な回答が、7月の時点で81.4%であったが、12月の調査では90.5%となった。具体的には、「一人一人がみんなと協力してより良い作品を作り上げようと考えながら活動できるようになったと思います。」(思考力・判断力・表現力)、「発表に向け、聞き手に伝える内容を、グループ内でアドバイスし合うことができました。声の大きさや原稿などの悪い部分をみんなですしずつ改善していくことができました。」(知識・技能、主体性)などの記述が多く見られた。

以上のことから、この単元を通して、日常生活の中から自分たちで課題を見つけ、その課題を自分たちで解決する方法を考えるようになり、進んで教え合ったり、学び合ったりする活動を通して、主体性を育むことができ、目指す資質・能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」の高まりが見られたと考えられる。

これからの課題としては、第2学年の職場体験学習につなげていくために、将来の夢を抱き、より広く地域・社会の課題に目を向けさせること、そして、望ましい生き方について、主体的に深く考える態度を養う取組が必要であると考えられる。